

に、UNDP の事務所も、次には担当官の家も反乱軍に占拠され、UNDP は臨時の連絡先から指示してきました。しかし、幸いにも会議最終日の前日に反乱軍が投降して、間一髪で危機をきりぬけました。100人近い参加者の会議だっただけに今思っても冷汗の出る思いです。又、1990年、エチオピアで会議を開いた時は、北部から反政府勢力が迫っており、要所に軍が検閲している物々しい状況で、会議が無事終了するかどうか不安でした。実際、半年後には政権が崩壊しました。

私はこちらに来てから二年近くになりますが、この間に東欧、ソ連の激変ぶりは目をみはるものがあり、WMO

の活動にも直接・間接に影響が生じそうです。東欧では数カ国で数値予報、特にLAMに関心があり、中でもユーゴは、Mesinger の指導のもとにモデル開発が進んでいただけに、現在の混乱した状況が気がかりです。

ジュネーブの夏は、夏時間の採用と北緯46度の位置とで日が長く、人々は陽光を愛でていますが、9月末には平常の時間にもどり、急速に日暮が早くなります。効率性や迅速性よりも、確実性や安定性を重視するスイスの国民性は日本人にはなじみにくいところがありますが、実直な面には親しみを感じています。

## 地球惑星科学関連学会1992年合同大会および共催シンポジウム 「赤道大気上下結合」のお知らせ

1992年4月7日～10日に、地球惑星科学関連学会合同大会（第3回）が京都大学教養部において開催されます。気象学会は表記の共催シンポジウムを開催する形で参加します。多数の気象学会員の出席を期待します。

### 日程およびプログラム

日時：1992年4月8日（水） 13:00～18:00

会場：京都大学教養部（合同大会A会場）

共催：日本気象学会、地球電磁気・地球惑星圏学会

世話人：廣田 勇（京大理）・深尾昌一郎（京大超高層）  
山中大学（同）

イントロダクション（13:00～13:10）

座長：深尾昌一郎（京大超高層）

趣旨説明：赤道大気への憧憬（10分）

廣田 勇（京大理）

セッション1：海洋↔下層大気（13:10～14:40）

座長：住 明正（東大気候研）

1. 季節風と海洋変動（25分）

山形 俊男（東大理）

2. アジアモンスーンと赤道大気・海洋結合系（25分）

安成 哲三（筑波大地球）

3. 赤道域の積雲対流活動とその変動（25分）

村上 勝人（気象研）

——休憩（14:40～14:50）——

セッション2：下層↔中層大気（14:50～16:20）

座長：山中 大学（京大超高層）

1. 準2年振動の力学（25分）

高橋 正明（東大気候研）

2. 低緯度成層圏・対流圏の光化学（25分）

近藤 豊（名大STE研）

3. 赤道域のオゾン分布に見られる経年変動（25分）

塩谷 雅人（京大理）

——休憩（16:20～16:30）——

セッション3：中層↔超高層大気（16:30～17:30）

座長：福西 浩（東北大理）

1. 大気潮汐波と下部熱圏の力学（25分）

宮原 三郎（九大 理）

2. 低緯度電離圏の力学（25分）

田中 高史（通総研）

総論討論：新しい問題点とその打開策（17:30～18:00）

座長：深尾昌一郎（京大超高層）

なお、コメンテーター数名（各OHP1枚、時間3分以内）を募集致しますので、関心のある方は、世話人（山中大学・電話0774-32-3111 内線3353）まで御連絡下さい。